



福井県の森林・林業の現状と B材加工工場の誘致について

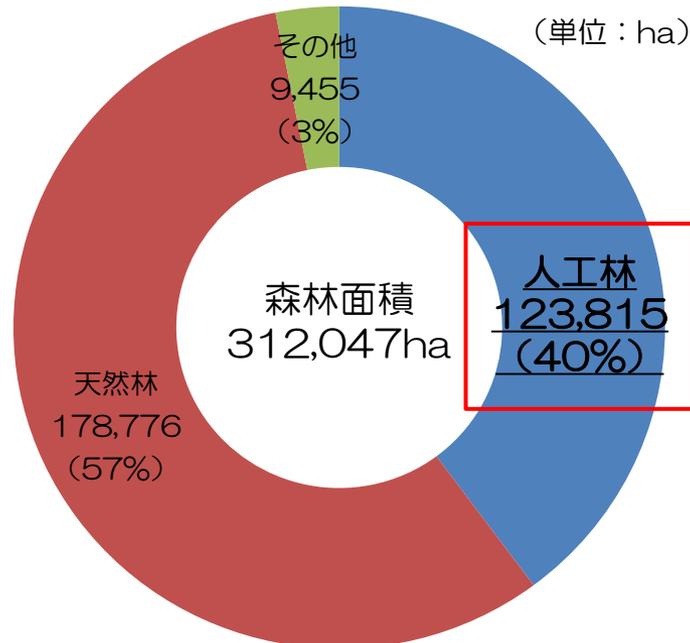
福井県 農林水産部 県産材活用課

2022年3月

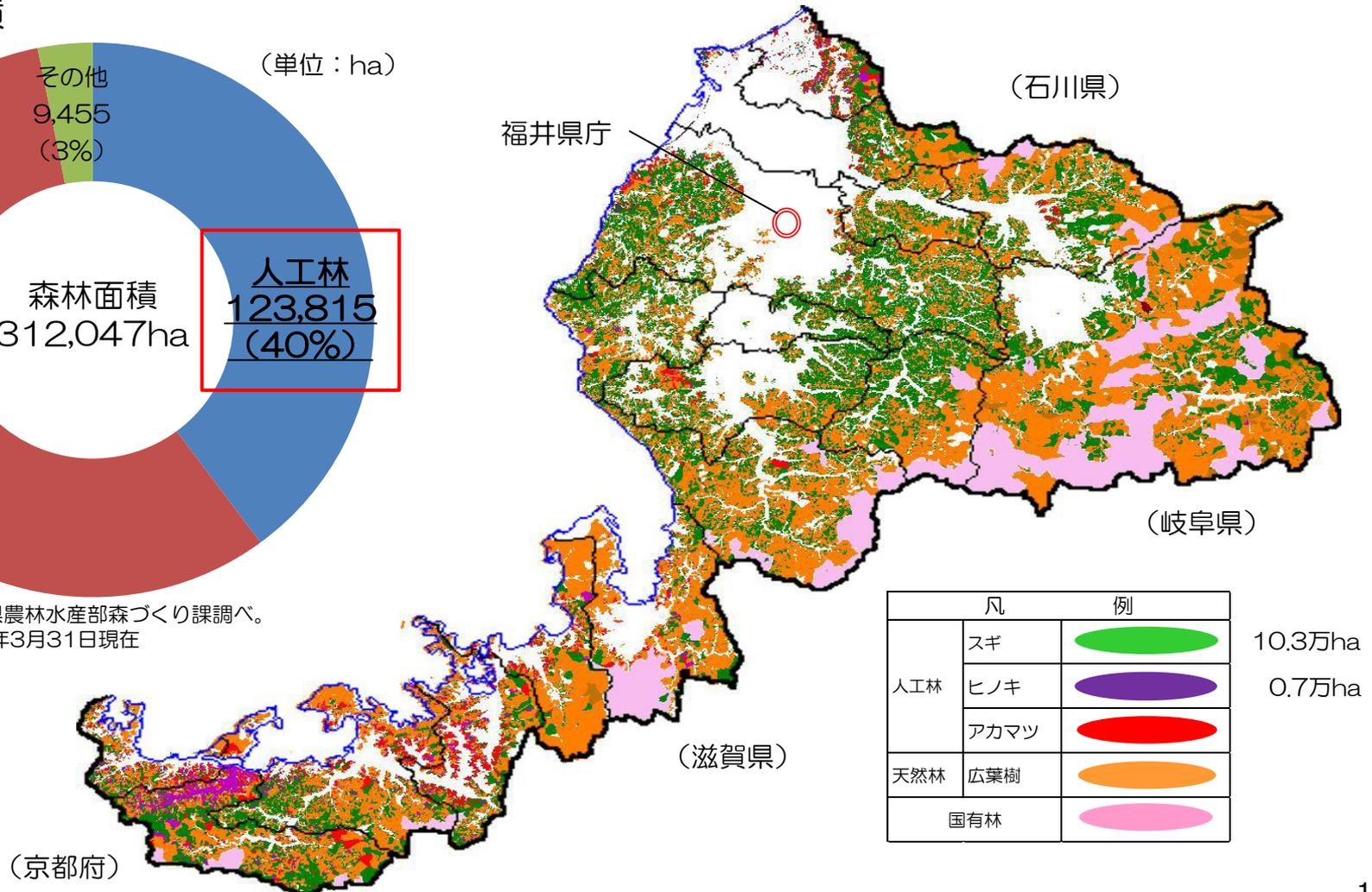
森林資源の現状

- 本県の森林面積は31万ha(県土の75%(全国平均67%))、うち人工林は12万ha
- 森林蓄積量は6,544万 m^3 (人工林4,366万 m^3 、天然林2,178万 m^3)

○森林面積



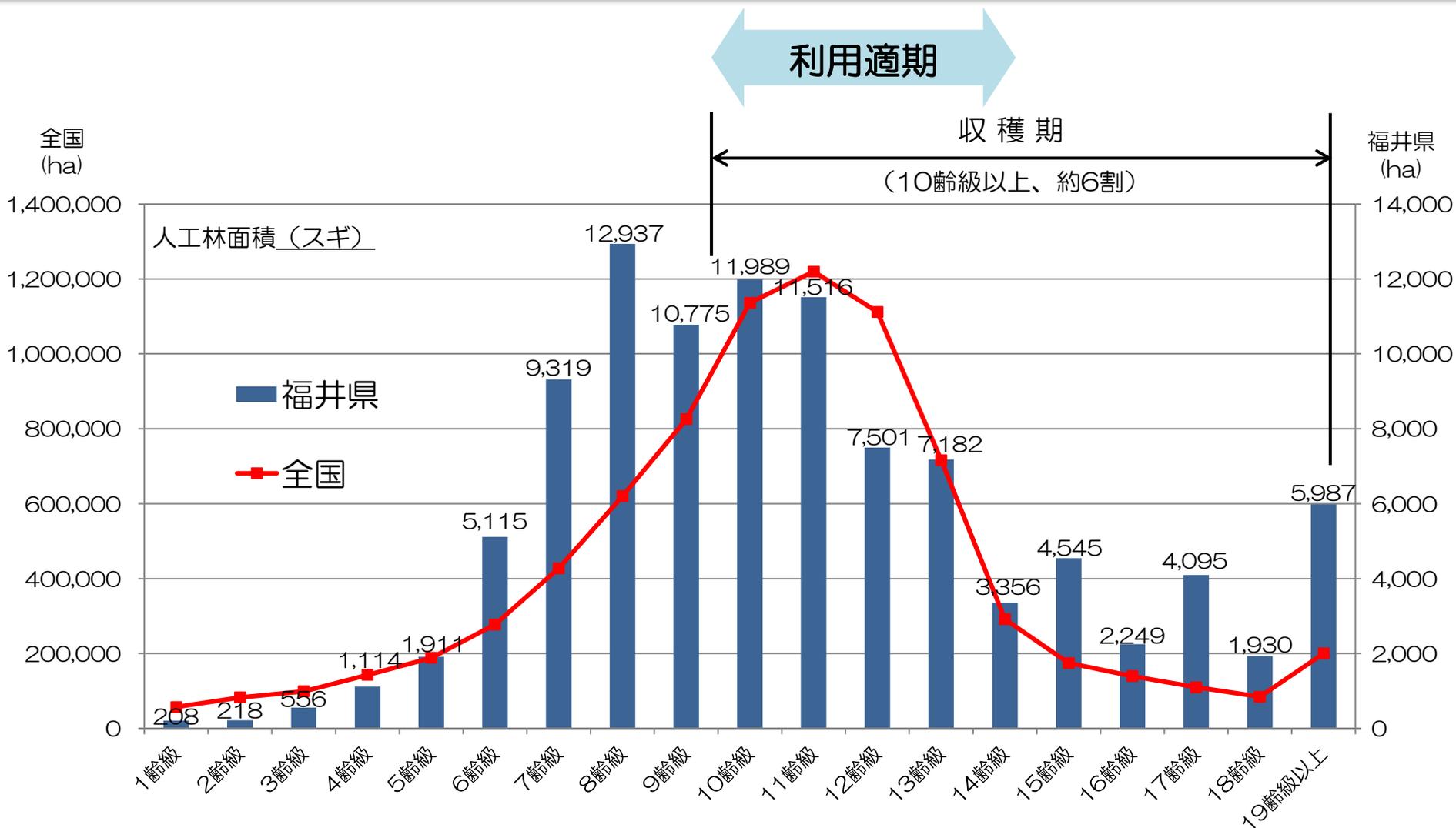
福井県農林水産部森づくり課調べ。
H30年3月31日現在



凡		例	
人工林	スギ		10.3万ha
	ヒノキ		0.7万ha
	アカマツ		
天然林	広葉樹		
国有林			

民有林における人工林齢級構成

- 人工林は8～12齢級の面積が多く、全国に比べ若齢（これから利用期を迎える林分も多い）
- 製材用・合板用として利用可能な人工林資源が年々増加（10齢級以上が約6割）

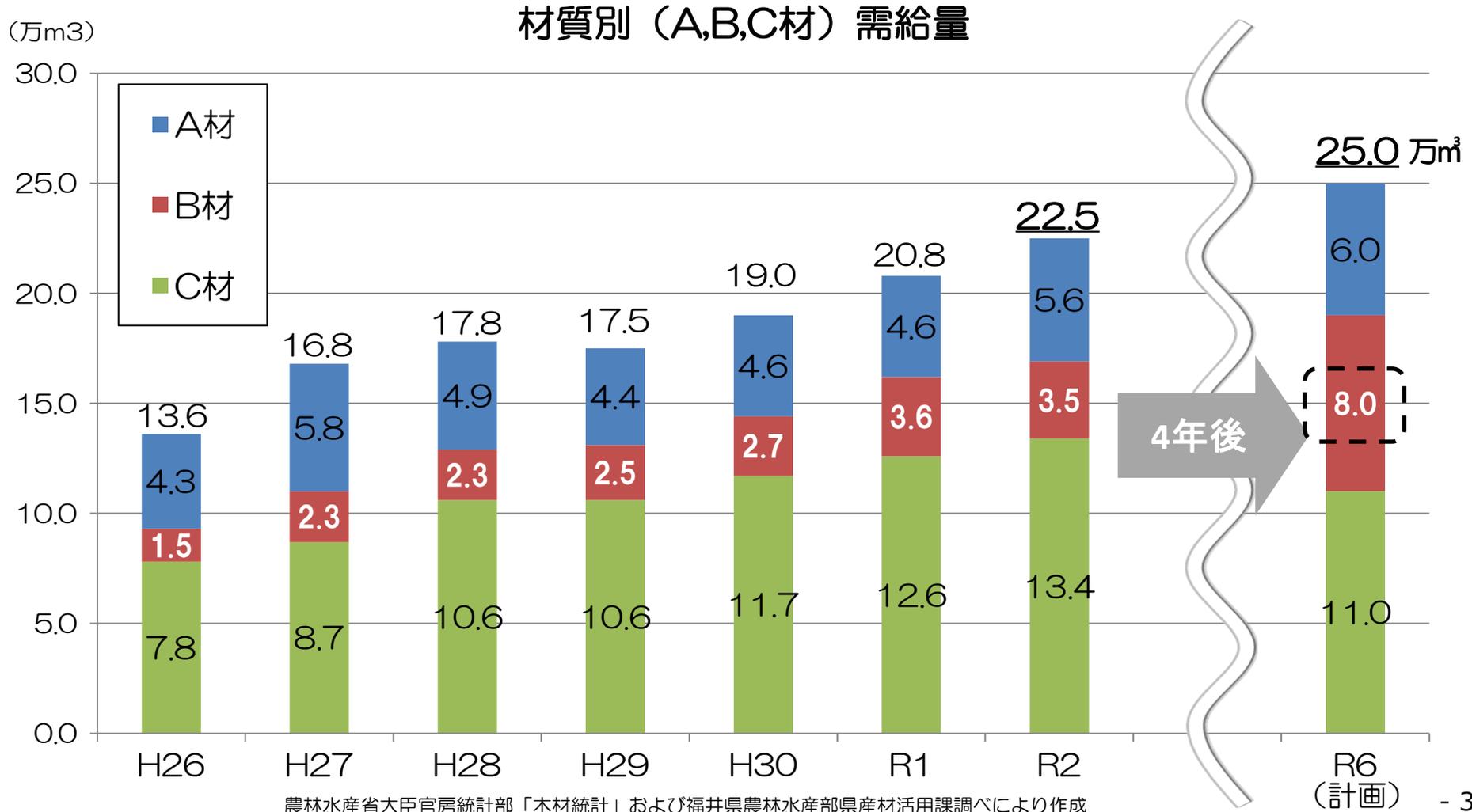


齢級・・・林齢を5カ年でくった単位（林齢1～5年生を1齢級）

福井県農林水産部森づくり課調べ。H29年3月31日現在

木材生産量の推移と計画値

- 近年、搬出間伐の事業量の増加やバイオマス発電施設の稼働等により木材生産量は増加傾向
⇒ H26実績:14万m³ → R2実績:23万m³ → R6計画:25万m³
- 人工林蓄積量4,366万m³（年間成長量70万m³）に対し、利用は不十分

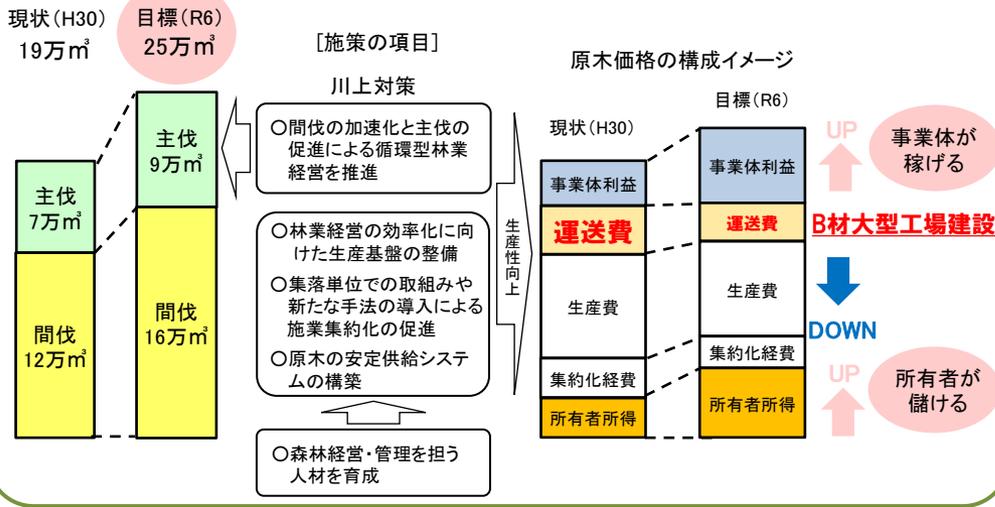


B材需要創出による課題解決【ふくいの森林・林業基本計画（概要）】

森を活かすプロジェクト

量 県産材生産量を1.3倍に増やします。

質 所有者の所得と事業体の利益を増やし、「儲ける林業・稼げる林業」を目指します。

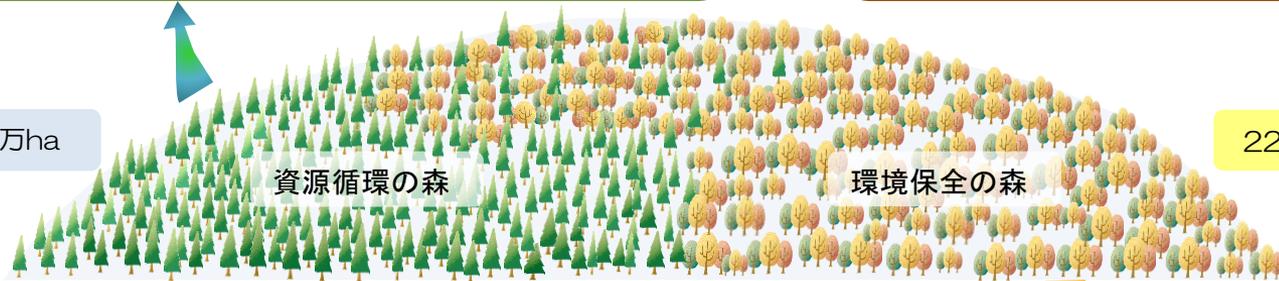


木を活かすプロジェクト

価値 原木の価値に応じた需要を創出または拡大します。



5万ha



資源循環の森

環境保全の森

22万ha

森に親しみ、森を守るプロジェクト

恵 森林の多様な活用を通じて山村地域の活性化を図ります。

運動 全国植樹祭を契機に展開している緑と花の県民運動を推進します。

守 事前防災・減災対策を進めるとともに、獣害・病虫害等に強い森づくりを推進します。

【施策の項目】

山村の活性化

- 森林の多様な活用による山村の活性化
- 地域資源である特用林産物のブランド力強化

県民運動

- 緑と花の県民運動を永続的に展開
- 北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた観光地周辺等の花いっぱい運動の推進

防災・減災

- 災害等から暮らしを守る森づくりの推進

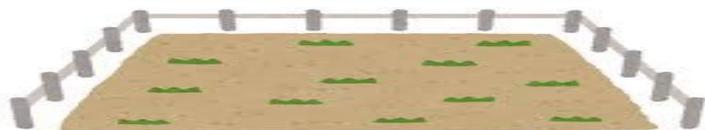
B材加工工場 施設整備等に対する主な優遇制度

①工場新設時

○土地取得や造成、建設等経費に対する補助

- ・ 福井県 10% (限度額は4億円)
※県のプロジェクト等と連携できる企業で要件を満たす場合、補助率25%、限度額10億円
- ・ 市 町 20~30% (補助率・限度額は市町で異なる)

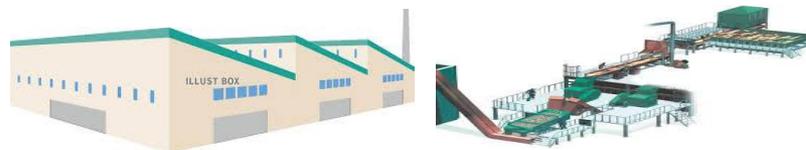
合 計 30~40% (限度額は市町等で異なる)
※45~55% (県のプロジェクト等連携)



○工場建設や機械等取得に対する補助

- ・ 国 (林野庁) 50% (限度額は施設等で異なる)
- ・ 福井県 10% (限度額は国に準ずる)

合 計 60% (限度額は施設等で異なる)



②税制 (原子力発電施設立地地域)

○県税の課税



- ・ 事業税
不均一課税 (3年間)
- ・ 不動産取得税
不均一課税 (90%免除)



③電気料金 (原子力発電施設等周辺地域)

○実支払い電気料金に対する補助



- ・ F補助金 増加電気料金の4割程度 (8年間)
- ・ 原子力立地給付金 電気料金の1割程度

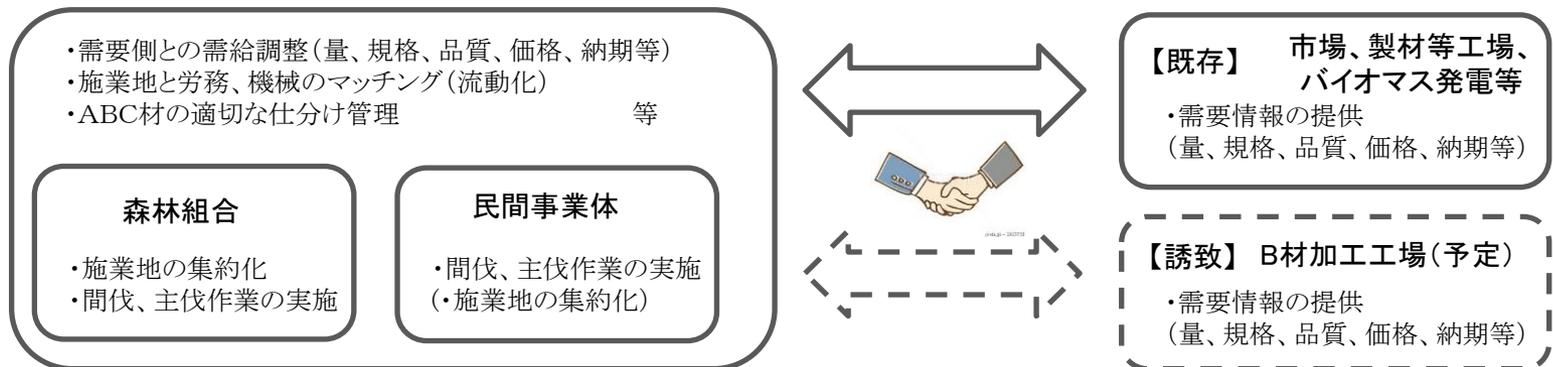
合 計 実支払い電気料金の半額弱の割引

詳細は「福井県企業立地ガイド」を参照してください

B材加工工場 原木の安定供給に対する体制構築

○森林組合や民間事業者などからなる協議会を設置し、需要側との情報共有、需給調整体制を構築

ふくい県産材生産拡大協議会 (事務局:福井県森林組合連合会)



【参考】これまでの実績 (県内木質バイオマス発電所への原木供給)

計画	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
6.3万m ³	4.5万m ³	6.3万m ³	6.8万m ³	6.8万m ³	7.3万m ³	6.9万m ³	6.7万m ³

発電開始

